

将来のインフラ整備に向けて描く 5つの「都市の未来図」

◆大門・丸之内地区

4月下旬オープン予定の「ホテル津センターパレス」により、新たな価値が加わることでこの地区の姿が大きく変わろうとしています。既に国の「**官民連携まちなか再生推進事業**」を活用した基礎調査に着手しました。この地区の将来像を描くため都市計画の観点から調査分析し、地権者や商店主、企業、まちづくり会社、商工会議所などの民間と行政が連携して「**エリアプラットフォーム**」を創設することでまちづくりを進めようとするものです。ゴールは、まちの未来の姿を描き、目指す土地利用の方向性を**次期都市マスタープランに反映**させることです。必要とあらば都市計画を変えていくことも視野に入れ、思い切った**未来ビジョン**を策定します。



現在の大門・丸之内地区の様子

◆津駅周辺

津駅東口のビルや駅前広場の姿が現在の形になって50年が経過しようとする中、駅周辺の道路空間の利用状況が変化してきています。令和2年5月に道路法が改正され、**駅ロータリーのバス・タクシー乗り場の整備**や**歩行者空間等の拡張**など、未来を見据えた再編事業に取り掛かるチャンスが訪れました。令和2年7月に県・市の「津駅周辺道路空間検討会」での議論が始まり、令和3年度からは国・県・市の「検討委員会」に発展し、検討が進んでいます。



現在の津駅東口の様子

国・県の津駅東口における事業の地元調整への協力にとどまらず、**津駅西口**の再整備に向けた**津市独自の調査**も同時に進めることとしました。**利用者の**

増加による混雑の緩和や通行車両の安全確保を図ります。

津駅が県都の玄関口にふさわしい姿になるよう国や県との連携を深めてまいります。

◆志登茂川河口架橋

河芸町島崎町線は、伊勢湾岸を南北に貫く道路として、平成23年度に事業化された津松阪港海岸栗真町屋工区の堤防整備と一体施工する三重大学東側から建設が始まりました。志登茂川河口付近から南に向けて橋が架かり、江戸橋三丁目と島崎町が直接つながらなければ、**国道23号の渋滞解消**には至らないと、「**第3の江戸橋**」の実現を一貫して県に要望してきました。平成29年からは津市が河芸の漁港から上野地区海岸の市道を建設して北進のスピードアップを図り、**志登茂川河口架橋**の着工を粘り強く求めました。ついに今年度、県において**橋梁区間を含む道路予備設計、路線測量、地質調査**の予算が措置され、架橋の構想図が設計図面へと変わる局面を迎えました。県事業への負担金の予算措置を講じるとともに、津市の職員を県の津建設事務所に派遣するなど事業推進を図ってまいります。



現在の志登茂川河口付近の様子

◆中勢バイパスの全線4車線化

交通安全対策事業として**南河路**交差点の直線レーンの設置に加え、**久居相川、半田東、久居野村**の各交差点を中心とした区間に続き、令和2年度から**長岡宮ノ前**交差点の部分4車線化の工事が進んでいましたが、次に事業着手された**大里窪田町出口交差点の立体化**は、初めて交通安全対策事業ではなく**道路改築事業**としての予算で進められることとなりました。



長岡宮ノ前交差点付近の工事の様子